

ダム決壊の始まり：進化論者の転向が主流メディアの報道を受けるとき

【訳者注】これはわが国の主流メディアにも、注目していただきたいニュースで、大きな社会現象と考えてよい。特に、頑なに旧説にしがみついただけでなく、これをますます強化しようとする NHK は、これを読んでみていただきたい。とにかく、幼い子どもに対して、意図的にダーウィン進化論を押し付けるというやり方はよくない。せめて、そうではない考え方もあるということを、教えるべきではないか？——子供のためにも、我々自身の考え方を整理するためにも。

Andrew McDiarmid <https://evolutionnews.org/author/amcdiarmid/>
August 29, 2019



イエールのコンピューター・サイエンティスト Dave Gelernter の、自分はダーウィンに見切りをつけるのだ、という最近の公的な告白は、波風を起こしつつある。

<https://www.claremont.org/crb/article/giving-up-darwin/> すぐれたカトリックの知識人で作家の George Weigel の論文 “Getting Beyond Darwin” (ダーウィンを乗り越える) でのゲレアンターについてのコメントに引き続いて、

<https://www.firstthings.com/web-exclusives/2019/08/getting-beyond-darwin>

Barbara Kay の National Post に発表した「ダーウィニズムについての論争が、再び始まった。160年たっても、我々には説明できない謎がまだある」という認識が示されている。

<https://nationalpost.com/opinion/barbara-kay-160-years-into-darwinism-theres-one-mystery-we-still-cant-explain>

これはもちろん、我々の念頭から去ったわけではない。しかし、**ダーウィン進化論を疑う深刻な科学的理由があるという科学者間の声を、主流メディアが捉えてくれたことには、我々は大いに勇気づけられる。**

ケイ女史は、ゲレアンターの最近の転向に言及し、そのきっかけの大部分は、スティーヴン・マイヤーの著書 *Darwin's Doubt* (ダーウィンの疑い)にあると言っている。彼女はまだ、マイヤーのこのベストセラーを読んでいないと言うが、一方で、類いまれなジャーナリストで小説家 Tom Wolfe の別の本を指摘している。彼は最後の著書 *The Kingdom of Speech* (言葉の王国) で、ダーウィニズムを退けた。

https://evolutionnews.org/2016/08/in_the_kingdom_/

「ゲレアンターは、転向の動機を、主として Discovery Institute 「科学と文化」センター所長の、地球物理学者 Stephen Meyer の 2013 年の本 *Darwin's Doubt* だと言っており、これは「1 世代間で最も重要な本の一つだ」と言っている。私はまだこれを読んでいないが、私はトム・ウルフの魅力ある 2016 年の *Kingdom of Speech* を読み、心からこれを推奨したいと思う。ここでウルフは、彼の特徴である熱烈に引き込む調子で、ダーウィニズムの歴史をバラバラにしているが、同時に、ダーウィニズムの特に大きな謎であるアキレス腱——種の中でも唯一人間だけの、大きな脳と抽象的思考と言語能力——を、まったく説明できないでいることに焦点を当てている。」

「究極の知の作品」

ケイは、ウルフが言葉を「究極の知の作品」と呼ぶのを、そのまま繰り返し、人間の脳と言語の力は、ダーウィンの自然選択の原理の範囲を、完全にはみ出すものだという。すなわち、ある新しい機能は、その動物の生き残りのためにだけ出来るであって、それ以上のものではない。すなわち、変化はその動物にとって不利なものでなく、それが発達しようとする時期において、その動物にとって有益でなければ、その器官は生ずることができない。「もし、どんな霊長類より 3 倍も大きく、言葉の特別な能力をもった脳が発達し始めるのでなければ (すなわち目的をもって発達しなければ)、どう考えたらよいのか？」とケイは尋ねる。

彼女はさらに、声望ある専門家 9 人による 2016 年の論文に光を当てている。特に著名な言語学者ノアム・チョムスキーは、“The mystery of language evolution” (言語進化の謎) という論文で、言語学における現代の爆発的な研究にもかかわらず、言語の起源を説明することはできない、と認めている。

https://evolutionnews.org/2016/08/in_the_kingdom_/

ケイは論文で、現代を形成した、チャールズ・ダーウィン、カール・マルクス、ジークムント・フロイト、アルベルト・アインシュタインの理論の中で、ダーウィン説が最もうまくいった。それを疑うことは、インテリジェント・デザインの可能性を持ち出すことなので、嘲笑を招くことだった、と説明する。それは、過去においても現在においても、知識階級が全く許さないものだった。

彼女は言う——「知識人は地団太を踏んで、そんなことがあってはならないかのように言うかもしれない。しかし、長いことタブーだったこの論争は、再び始まっている。」論文全文はここをご覧ください：<https://nationalpost.com/opinion/barbara-kay-160-years-into-darwinism-theres-one-mystery-we-still-cant-explain>

さらに寄せるさざ波がある

我々はグレアンターのさざ波の終わりを、まだ見ていない。彼は生物学者でも、この話題の権威でもないことを容易く認めるが、彼には数十年のアカデミアの経験があり、そこで彼が目撃してきたのは、「(インテリジェント・デザインに対する) 苦々しい、根本的な、腹を立てた、とんでもないという拒絶であり、これほど科学上で、知的な論争になっている場面は他になかった。」ダーウィニストたちは、グレアンターが生物学の専門資格を持っていないとして、追い詰めた。しかし特に、コンピューター科学者たちは、ネオ・ダーウィニズムの問題には敏感であり、それはしばしば、多くの生物学者の注意をすり抜ける問題だった。我が国の主導的コンピューター科学者の一人として、彼は、デジタル・コードと、複雑な情報処理システムをデザインすることが、どれだけの知能を要するものかをよく知っている。彼はその上で、ランダムな変異と自然選択が、DNA のデジタル情報を産み出すことができることを疑っても、許されるだろう。実際、あなたが白衣を着た実験室の生物学者でなくとも、ネオ・ダーウィン理論を悩ます問題を理解することはできる。あなたは単に、心を開いて、意欲的に証拠を考える人であるだけで十分だ。グレアンターはそのような人で、プラスアルファを持っているだけである。

もしあなたが、まだそれを見ていないなら、David Gelernter、Stephen Meyer、それに David Berlinski が、ダーウィニズムに数学的な挑戦をする様子を見ることができる。これを書いている時点で、このビデオは、100 万の 4 分の 3 以上 (788k) ものユーチューブの閲覧数を獲得している。

——以上